

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度技術情報第22号（サツマイモ基腐病）について（送付）

**さつまいもの採苗とほ場管理，生育初期の防除対策**

サツマイモ基腐病の今年度の発病リスク軽減につなげるため，採苗時及び本ほでの対策を取りまとめ，技術情報として発表します。

なお，本情報は病害虫防除所ホームページ（www.jpnp.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

令和3年度 技術情報第22号

- 1 農作物名 さつまいも
- 2 病害虫名 サツマイモ基腐病 *Diaporthe destruens* (Harter) Hirooka, Minosh. & Rossman
- 3 対策事項
 - <採苗>
 - (1) 採苗時のハサミは，こまめに消毒（火炎滅菌または丁寧な水洗と拭き取り）する。
 - 病原菌は農具を介して伝搬することがある。火炎滅菌等の消毒は，健全株への感染を防ぐ効果がある。
 - (2) 採苗は，株の地際から5 cm以上切り上げて行う。
 - 健全株に見えても感染している場合があるため，採苗位置を上げることで発病リスクを低下できる。
 - (3) 苗消毒は，必ず採苗当日に行う。なお，消毒液は採苗当日に調整したものを用いる。
 - 採苗当日に消毒することで，感染リスクを低下できる。作り置きした消毒液は殺菌効果が劣るため，必ず採苗当日に調整する。
 - <本ほ>
 - (4) 排水不良なほ場では，植付前に耕盤破碎（地下排水の促進）や明渠の施工（表面排水の促進）などの対策を行う。
 - 病原菌は水を介してまん延するため，排水対策を行うことで発病リスクを低下できる。排水路側に枕畝を作った場合は，枕畝の途中に排水溝を設置する。
 - (5) 発病株は見つけ次第除去して，その周辺株には銅剤を散布する。苗消毒による感染防止効果が低下する定植5週目頃に，予防・殺菌効果のある剤を散布する。
 - 発病株を放置すると大量の胞子を生じるため，必ず除去する。除去痕に補植しても再発する可能性が高いため，補植は避ける。散布の際は，葉よりも株元や茎に薬液が十分付着するように行うことで，発病抑制効果が高くなる。

<サツマイモ基腐病の生態と防除>

サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策

(農研機構，令和3年度版)

